

Statistical Room



秋の味覚

記録的猛暑だった夏も過ぎ、秋の季節となりました。

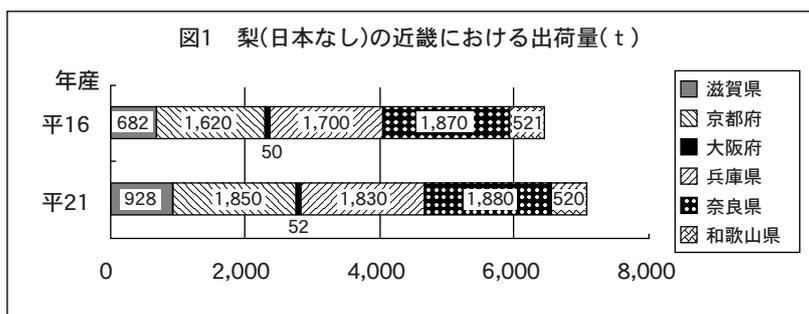
秋の味覚といえば、何が思い浮かぶでしょうか。柿、梨、ブドウ、栗、マツタケ、秋刀魚、秋ナス・・・など、果物から野菜まで次々と食材が挙げられると思います。

ただ今年は長引いた暑さの影響により、果物などの生育が遅れている地域があり、出荷量への影響が心配されるようです。

京都府では、ブランド京野菜として、秋は、有名な丹波くりをはじめ、京たんご梨、紫ずきん（黒大豆枝豆）など、魅力的な味覚がそろっています。

農林水産省の農林水産統計では、都道府県別の果樹の作況調査結果がわかります。昨年までの京都府の出荷量はどうなっているのでしょうか。

図1は近畿2府4県の梨（日本なし）の出荷量です。



参考：全国出荷量（梨）

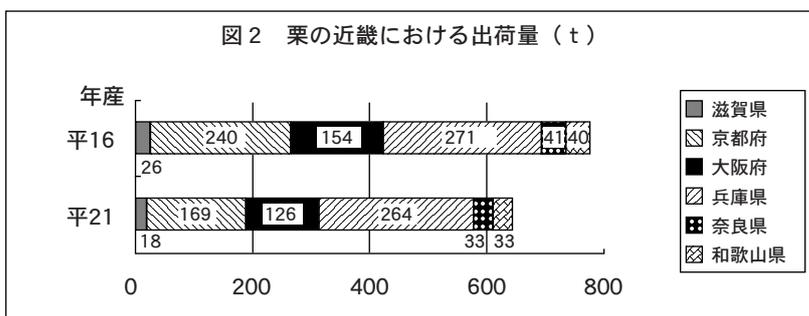
平16年 300,800 t

平21年 292,700 t

資料：農林水産統計

平成16年産と平成21年産を比べると、全国出荷量が減少しているのに対し、近畿全体で6,443tから7,060 tと増加し、ほぼ各府県とも出荷数を伸ばしています。特に京都府の出荷量は1,620tから1,850tと増加し、近畿内のシェアも平成21年産では兵庫県を抜き、第3位から第2位に浮上し、健闘しているといえます。

図2は近畿2府4県の栗の出荷量です。



参考：全国出荷量（栗）

平16年 16,600 t

平21年 15,600 t

資料：農林水産統計

近畿では京都府は兵庫県に次ぐ出荷量となっています。ただ栗の生産面積については全国的にも年々減少傾向にあり、原因としては農家の高齢化などの労働力事情や天候不順によるものと考えられます。

今しか味わえない旬の味覚を楽しんでみてはいかがでしょうか。